

地域協議会だより

Vol. 16 (2016年6月1日発行)

長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会
長野市大字南長野字宮東 452-1
長野県土地改良会館別館 3階
会長 赤羽 昭彦



初夏の候

紫陽花が大輪の花を咲かせる頃となりましたが、皆様におかれましては
いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回の「協議会だより」では、地域の活動事例についてご紹介いたします。



地域の活動事例紹介

1. 須坂市「井上農地保全会」

平成 28 年 3 月 25 日(金)の全国農業新聞に、須坂市の南西部、千曲川右岸に位置する「井上農地保全会」が紹介されました。基盤整備事業を契機としたその取組内容についてご紹介します。

本地区では、「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」を活用して、農道や水路の整備を行うとともに、事業を契機として地区内の遊休農地の解消等を図るため、「井上農地保全会」を結成し、多面的機能支払事業に取り組んでいます。

平成 27 年には、山際に広がる遊休農地の草刈りやレンゲ草の種まきを通して、農地の再生利用を図るとともに、地域の環境保全活動として、長野電鉄の廃線跡に赤ソバの植付を行いました。

多面的機能支払交付金を活用した取組内容
遊休農地、法面等の草刈りの様子

「井上農地保全会」 地区概要

- ・須坂市の南西部、標高 340m 位の水田と畑地帯。
水資源に恵まれ、稲作を主とし、良質な米を生産。
- ・取組面積 : 14.48ha (田 10.59ha、畑 3.89ha)
- ・資源量 : 開水路 5.2km、農道 2.5km
- ・主な構成員: 農業者、土地改良区、自治会
- ・交付金 : 約 120 万円 (H27)

農地維持支払

資源向上支払(共同、長寿命化)





景観形成・生活環境保全活動

赤ソバ(高嶺ルビー)の種まきの様子

農声

農業基盤整備の波及効果 進む農地の保全と活用



長野県須坂市農業委員 清水 澄夫

須坂市井上町の農家が長年望んだ「農業基盤整備事業」が完了した。以前は軽トラ一台しか通れない道路、田に入水できないような水路が一変した。高齢者も安心して車が運転でき、水の掛け口も便利になり耕作者も喜んでいる。「新しい道を歩いて」と声かけをしたこともあり、子どもづれの方など大勢の方が歩き、農道がまるでウォーキングコースに。散歩コースの案内板でも作りたいほどだ。

私も地元代表として農業基盤整備事業に参加した。事業の役員や地権者が何回も集まって話し合いを持った。その中で「井上の他の地区で荒廃農地が増えている。何とかならないか」との話がでて、「多面的機能支払交付金」を取り入れることになった。地元でも役員さんや若手に集まっていただき、多面的機能支払交付金を取り入れるためには、まず荒廃農地の草刈りが必要だと説明をすると、みんなでやろうと団結した。以後、会合を重ねて「井上農地保全会」が発足した。

活動の一環で長野県鉄旧屋代線跡地へ赤ソバをまいた。きれいに咲いた頃には地元新聞の取材のほか、園児や地元の大勢の方が見に来られ、皆さん楽しんでいただけたと思う。後継者がいるかと無農家アンケートも行った。農業従事者の40%が70歳以上で、後継者が不在の方が多いことが分かった。早急に対処が必要だと「農地中間管理機構」の説明を聞き、みんなで同じ方向を向いて、「貸し手」と「借り手」双方の話を聞きながら話し合いを進めた結果、数多くのマッチングができてきている。

一方、地域に大勢いる元気な高齢者が活動できる場づくり、近くの障害者の作業所の方ともふれあう機会づくりにも取り組むたいが、良い方法が見つからないのが現状だ。今回、基盤整備事業を取り組んだことを機に、地元では二重二重の効果が生まれてきている。この皆さんの気持ちを大事にして、子どもたちには昔ながらのふるまの風習を残し、次に渡したいと思う。

事業実施に尽力された方々から感謝したい。

全国農業新聞
平成 28 年 3 月 25 日(金)掲載

基盤整備事業を実施する中で、周辺の荒廃農地対策や農業者の高齢化対策等の意見が出され、多面的機能支払交付金事業の導入をすることになりました。

また、農地中間管理事業を活用して、担い手への農地集積の話がまとまっています。



2. 松本市「中信平左岸の会」

長野県では、交付金を活用して取り組める内容に固定式散水施設を独自に追加し、畑地帯での取組の拡大を図っているところです。今回は、県下有数のリンゴ生産地帯である「中信平左岸の会」の活動を取材しましたのでご紹介します。

「固定式散水施設の更新」

県の地域活動指針に定めた「固定式散水施設(ヘッドまで)の更新(約 8,000 箇所)」を組織の皆さんが直営施工で実施



スプリンクラーヘッドを交換



スプリンクラーヘッドを取り付ける器具の検測

交換作業 施工前の様子

「中信平左岸の会」 地区概要

- ・梓川左岸の扇状地に広がる地域で、国営中信平事業及び県営畑かん事業等により基盤整備された県下有数のリンゴ生産地帯。
- ・取組面積 : 1,059ha(田 18ha、畑 1,041ha)
[松本市梓川、安曇野市三郷・堀金]
- ・資源量 : 開水路 9.9km、パイプライン 119.3km
- ・主な構成員: 農業者
- ・交付金 : 約 4,300 万円(H28)

農地維持支払

資源向上支払(長寿命化)

地域協議会だより



施工中の様子



竣工



灌水が始まる前のこの時期に、老朽化した固定式散水施設の更新の他に、電磁弁等の補修が行われます。

この活動によって、散水機能が増進し、果樹農家の皆さんに喜ばれるとともに、高品質な農産物の生産性の向上に大きく寄与しています。

事務局から

今回は2つの活動組織をご紹介しました。今後も活動組織の取材・紹介を行っていく予定ですので、ご協力よろしくお願いいたします。

■問い合わせ先

長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会

(担当：酒井・大井)

TEL 026-219-6351 FAX 026-219-6352

Eメール nagano-tamenteki@wonder.ocn.ne.jp

URL <http://www.nagano-nouchimizu.net/>

